

ノスリが渡って来た—砂崎海岸にて—

石谷 義一

10月2日、砂崎へ行く。もしかしたら、まだ居残っている、ハマシギ、トウネンに会えるかもしれない。砂崎の浜は、もう晩秋のたたずまい。今日は波も静か、振り返ると、砂原岳（駒ヶ岳）は紅葉し、青空にくっきりと、聳えたつ。

双眼鏡を持ち、フィールドスコープを担いで、浜に出る。右から左へと、渚をなめる様に探す。ハマシギもトウネンもない。もう南へ渡ったのか。海上には、ウミアイサ3羽、カモメ類多数、ウミウが、左右から海面をすれすれに飛び交う。浜から牧場の方へと移る。カラス、トビの群、灯台の近くまで歩く。水溜りに、何時もはいる、カモの姿もない。また、浜に戻り、砂に腰を降す。

しばらくして、鳥の群が対岸（伊達火発の煙突の左手）からやってくる。双眼鏡を手に覗くと、……なんだ、トビかと、がっかり。次第に頭上に迫る。ところが、10数羽のトビの後に、違う鳥が混じっている。1羽、2羽と近づく。ノスリだ……。次々と頭上に向かってくる。先に来たトビ達は、砂原岳へ吹き上げる上昇気流に乗って、旋回を始める。その中に、1、2羽のノスリを再び発見。斜め上からの太陽の光にすかして、ノスリの翼角の黒色斑が、はっきりと確認出来る。それに気をとられ、ノスリの羽数を数えるのを、しばし忘れてしまった。次々と間をおいて、対岸から来る。20羽以上は数えた。

もう何年前か前、測量山へワシ・タカの渡りを見に行った時、対岸の駒ヶ岳へ向って、渡って行くのだと聞かされた。それで、その時期になると、何度も砂崎に足を運び、ノスリを待ちかまえていたのだが、一度も私の目で捕らえたことがない。多分、駒ヶ岳を目標にするのだろうけれど、左に変針して恵山岬に向うのではないかと推測していた。

今年10月初旬、恋路ヶ浜（伊良湖岬）で、チゴハヤブサの渡りを調査している旭川の方（お名前は聞かずじまいであった。）と会った。その方のお話によると渡島半島の矢越岬に集るとの事であった。それが、今日私が見た、少なくとも20羽以上のノスリが、トビを先導に、対岸から渡って来たのだ。今年だけに限ったことなのだろうか。それとも、毎年ノスリのあるグループだけが、砂崎の上空を通過するのを、私が日時の違いだけで、会えなかっただけなのか。ノスリの姿が途絶えたところで、双眼鏡を右にずらし、測量山の方向にむけると、5羽程の大型の鳥が、恵山の方へ向って行く。彼等もノスリなのではなかろうか。本当に感激の一刻であった。

後 記

- ・ 観察日時 1990年10月22日（月）午前10時40分
（トビの先頭）～午前11時迄（最後のノスリ1羽まで）
- ・ 場所 茅部郡砂原町砂崎灯台近くで
- ・ 天候 快晴・微風（北西）
- ・ 次の日（23日）午前9時～正午までノスリには会えない
- ・ 翌々日（25日）午前11時頃トビと一緒に旋回しているノスリ2羽を見る。
- ・ 更に29日（月）午前10時25分同じ方向から、海面すれすれにヒヨドリの一群（およそ200羽程）渡って来た。